

2025/11/1 SAT — 11/25 TUE

10:00-17:00 土日・祝日は休館(11月1日・2日のみ開館)／入場無料

スポーツ・芸術文化共創 LABO、共通教育芸術分科会 FD

主催：高知大学

Art Research Exhibition

DOIHARA Takahiro | NOZUMI Koichi | ABE Tetsutaro | YOSHIOKA Kazuhiro | MATSUSHIMA Tomohide | KITANO Ryo

制作・教育・研究の関係をあらためて問う

ごあいさつ

この度、2025年度に開設された高知大学アートギャラリーにて、美術教育に携わる6名の本学教員による展覧会を開催する運びとなりました。本ギャラリーは「芸術文化に関する教育・研究を広く発表する場」として企画されており、本展も「展示(Exhibition)」の営みが「芸術による研究(Art Research)」の一環であることを、タイトルとして掲げております。

しかし、制作・教育・研究の関係性を、私たちはどう捉えることができるでしょうか。美術・芸術の制作活動は、客観的・論理的な研究とは異なるのではないかと制作における探究は、教育にどのように資することができるのか？研究者と教育者とアーティスト・デザイナーの専門性はどのように絡みあっているのか？等々、そこには簡単には汲みつくせない複雑な問題が潜在しています。

本展では実験的な取り組みとして、各教員が作品・活動等の展示を通して、「制作・教育・研究はどのように関係しうるのか？」というリサーチクエストへの回答を試みています。昭和42年に特別教科(美術・工芸)教員養成課程が設置されてから58年。令和6年にはスポーツ・芸術文化共創専攻が新たに設置され、より深く美術教育を学べる環境が整いました。地域社会の皆様の永年にわたるご支援とご理解に深く感謝を申し上げますと共に、あらためて美術教育の可能性を問う場を共創していくことができればと考えております。ごゆっくりご高覧いただけますと幸甚に存じます。

出品者一同

西洋画

土井原 崇浩
DOIHARA Takahiro

岡山県出身。東京藝術大学大学院美術研究科修了。専門は油彩画による具象表現の可能性を研究。主な受賞歴は日展特選、白日会文部科学大臣賞、白日会財団法人損保ジャパン奨励賞、他受賞多数。日展審査員を歴任し、個展、全国の百貨店・老舗画廊でのグループ展を開催している。

日本画

野角 孝一
NOZUMI Koichi

熊本県出身。筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科修了。博士(芸術学)。専門は日本画における心象表現の追及、及び材料研究。主な受賞歴は創画会創画会賞(最高賞)、福知山市佐藤太清賞公募美術展佐藤太清賞(最高賞)、他受賞多数。

彫刻

阿部 鉄太郎
ABE Tetsutaro

兵庫県出身。岡山大学大学院教育学研究科美術教育修了。専門は塑造。主な国際展は大阪インターナショナルアート2025(大阪城ホール)、HEJI(イタリア)など。デジタル技術(3Dスキャン・3Dプリント)を活用した彫刻DXに取り組んでいる。

デザイン

吉岡 一洋
YOSHIOKA Kazuhiro

徳島県出身。徳島大学大学院総合科学教育部博士後期課程地域科学専攻修了。博士(学術)。専門はグラフィックデザインと版画。主な受賞歴は二科展デザイン部特選、日本版画会展奨励賞、カダケス国際版画展入選(スペイン)など。地域の芸術文化に関して比較文化研究を行う。

文化財保存科学

松島 朝秀
MATSUSHIMA Tomohide

沖縄県出身。東京藝術大学大学院美術研究科修了。専門は美術を科学的に調査研究する文化財科学。美術と科学をまたぐ学際領域。主な受賞歴は文化財保存修復学会奨励賞、大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト読売国際協力賞。国内外の文化財調査、文化支援活動に従事している。

美術科教育

北野 諒
KITANO Ryo

大阪府出身。京都造形芸術大学大学院芸術研究科修了。「美術教育における対話」をテーマとして、題材開発・授業デザイン・ファシリテーションなどの実践的な研究を行っている。主な著作に『ここからどう進む？対話型鑑賞のこれまでとこれからアート・コミュニケーションの可能性』(2023、淡交社)など。

art
GALLERY



アートギャラリー

10:00-17:00 土日・祝日は休館(11月1日・2日のみ開館)／入場無料
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 高知大学教育学部3号館1F
駐車場のご利用について、入構後30分以内 無料、30分超60分以内 200円、60分超90分以内 300円